

「祝福を受ける」

創世記 1章 29節～31節
マタイによる福音書 5章 1節～10節

説教 軽込 昇牧師

礼拝は神ご自身の招きによって成り立ちます。牧師によって招きの言葉が宣言され、礼拝が始まります。その招きの言葉に対応するのが礼拝の終わりに牧師がする祝祷です。神に招かれ神の言葉によってこの世に派遣される、それが私たちの礼拝です。

「山上の説教」という言葉でマタイによる福音書5～7章でまとめられたイエスのお言葉は、一般的な事を語られている様に受け取られていますが、おそらくは初代教会で洗礼を受ける人達への教科書ではなかったかと言われています。洗礼とは、今まで神なしで自力で生きてきたと思っていた者がキリストの者とされ、神とつながって生きる事、それを神と人々の前で言い表し罪をキリストに洗っていただく事です。洗礼を受ける事によって、その人本来の姿が現れる、既に洗礼を受けた人々にとっても自分の信仰の出発点を表す大切な儀式です。

主イエスのお言葉一つ一つは主イエスが生まれた道と結びついており、命が込められています。そして全て前提があり、根拠があります。抽象的、一般的な真理ではありません。どのお言葉も、ご自身が人間となられ、全ての罪を背負って十字架にお係りになられ、復活された、その大前提があって語られたお言葉です。同じお言葉がルカ福音書によると、すべて「あなたがた」すなわち、今、主イエスの目の前にいる人に語りかけられています。主イエスのお言葉はどれも切れれば血が出るような命のお言葉です。私たち一人一人がこの言葉で主イエスから語りかけられています。

私たちは神によって祝福されて創造されました。神が私たちを形どって人間を造ろうとご決心されたことが祝福です。「良しとされた」のです。私たちは皆神のご決心によって存在しています。しかし私たちは神に対して罪を犯し、神の御顔をまっすぐに仰げなくなってしまいました。素直に喜びと安心を持って神の御顔を仰げないのが私たちです。神はその私たちにご自身のほうから御顔をむけて下さり、神に対して素直になるようにしてくださいました。それが主イエス・キリストの十字架です。主イエスが私たちを覗き込むように「あなたは祝福されている」とお語り下さる、そのお言葉には命が込められています。

神の招きはまっすぐに私たちに向けられています。何より招いて下さる主イエスこそが私たちの中心です。主が私たちを招き「あなたは私につながる事ができる」とおっしゃっておられる、それが祝福の言葉です。「私があなたのためにいる。この私があなたのために人間になったのだ。私があなたの責任を取る、だからあなたは幸いなのだ」それが私たち語りかえられたお言葉です。聖書の中の「幸い」という言葉は意味から言えば「祝福」という言葉のほうがぴったりとします。「幸い」が幸福の状態を表すとすれば、「祝福」は関係、主イエスとの関係、神との関係性を表します。

主イエスは祝福を宣言されました。マタイ福音書5章とルカ福音書の「幸いである」は祝福されていると訳すべきではと考えています。祝福されている、あなたには神が共に居て下さる、その時私たちが抱える問題は依然問題ではあっても意味が違ってきます。創世記1章で神は私たちをお造り下さった、その天地創造が既に神の祝福です。主イエスの宣言は、神の創造の回復です。

私たちは祝福されています。それは言い換えれば、神を相手にしているのです。しかも私たちと同じ人間になられ、十字架におかかりくださり、復活された主イエス・キリストが私の相手なのです。誇るべきものは何もなく、ただ主イエスが御顔を向けてくださる、その事により頼んで主イエスの御顔を仰ぐ、それが私たちです。主イエスによって初めて神の前に素直になり、受け止めることができるのです。私たちには何もないからこそ、神の恵みを一杯に受け取ることができる、これは信仰の真理です。しかしまた素直に受け取れないのも私たちです。余計なものを持ちすぎて重荷に喘ぎ、神の恵みを受けられなくなっています。

あなたには祝福が約束されているのです。イエス・キリストという宝が約束されています。その宝を受け取って下さい。救い主がおいでになった、ということはどんな人間でもやり直せるのです。主イエスの祝福を受けて歩んで参りましょう。

(記 説教要約奉仕者)